

LIFE

アンドレス・イニエスタ自伝

この夏、神戸に歓喜の一報が入ってきた。それは「イニエスタのヴィッセル神戸加入」。当初、サッカーファンを驚かせたビッグニュースは瞬間に広まり、彼の来日を待ち望んでいた。衝撃的な移籍だった。バルセロナとスペイン代表でタイトルを手にしたような世界トップクラスの選手が日本にやってくるのは久々のことだ。...といっても私はサッカーに明るくなく、「そんなにすごい選手が来るのかー」としか思いませんでした。でも、テレビや新聞で大々的に取り上げられているし、せっかく神戸に来てくれるのだから！と思い、2017年2月に発売された「LIFE アンドレス・イニエスタ自伝」を読んでみました。普通の自伝とは違い、この本は彼の周りにいる人からのインタビューで構成されています。

「**全ての人**が親になり、**木を植え**、**本を書くべきだ**」という古いことわざを信じている彼は、娘と息子に恵まれ、子どもの頃遊んでいたフエンテアルビージャの公園に生えている木を大切に思っています。あとはこの“本”。彼が説明したかったのは「物事に対する自分の見方や感じ方、そして僕のことをよく知っている人がどのように僕を見ているのか」ということでした。Google検索では出てこない話を語るための本。彼と彼が信頼している2人のジャーナリストを加えた3人が1つのチームとして本書を書きあげました。

読んでみると、イニエスタがどれだけ愛されているか、信頼されているかがよくわかります。たくさんの方が彼に起きた出来事、プレーや性格についてコメントしている中で、際立っているのは性格について褒めている人の多さ。関わった人みんなが彼を好ましく思っていることに驚きました。中でもよく挙がっているのは、**謙虚、繊細、控えめ、シャイ、静か、内気、礼儀正しい、頑固、忍耐力がある、冷静、知性がある、習慣を重んじる、いつも他者のことを考えている、人として素晴らしい、尊敬すべき人...**

違う人に聞いても同じワードが上がってくるので、本当に彼はそういう人なのだろうと思います。スポーツ選手はもっとガツガツしている人が多いと勝手に思っていたので意外でした。練習や試合に真面目に取り組み、リラックスした冷静なプレーを行う。その一方、仲間のことをよく考えていて、口数が少ないが、必要な時には最適な言葉をくれる。とても頼りになる人だと感じました。彼の母親へのインタビューが最後に載っており、外から見た彼とその内面は違う、という発言があります。それもこの1冊を読めば納得できるものでした。

本書の冒頭で彼自身が述べていました。

僕は物事を深刻に受け止める性質だ。何かをやらうと思えば、それは正しいことだと思うからやるのであって、やること自体が目的じゃない。あるいは、自分をよく見せようと考えているわけじゃない。だからこのストーリーも、自分がサッカーをプレーしているときや家族の世話をしているときと同様の信念、情熱、決意のもとに書いていた。(中略)単なる感傷や記憶の流れをつづるのではなく、構成された読み応えあるストーリーにしたかった。

その狙い通り、登場する人たちはみんな彼のことを熱っぽく語り、アンドレス・イニエスタをさまざまな角度から見せてくれました。戦歴や受賞歴などを見ると本当に華々しい活躍をしている選手なのだとわかります。でもそれだけを見ていても彼のことはわからない。どのように考え、行動し、それがどれだけ周りの人々を勇気づけているか、ということを知って私も彼のファンになってしまいました。プレーの巧みさ、ピッチでの把握力がずば抜けていることも本書を読んで知りました。ぜひ、スタジアムでサッカーをしている彼を見てみたいと思います。

Andres Iniesta

1984年5月11日、スペイン生まれ。バルセロナの下部組織から2002年トップチームデビュー。リーグ優勝9回、チャンピオンズリーグ優勝4回など黄金時代を築く。2006年にスペイン代表入りし、2008年、2012年と欧州を二度制覇。2010年の南アフリカW杯では決勝点を挙げ、スペインの初優勝に貢献。今季ヴィッセル神戸に加入。171cm、68kg。

